

モード Mode Mode は語る

中野 香織

新しい美しさや情緒を

「空気から作ったシルク」と聞いて、どんなものを想像するだろうか？ 京都大学大学院工学研究科の沼田圭司教授が試作に成功したバイオ繊維「エアシルク」は、海中で光合成する微生物を利用して、空気中の窒素と二酸化炭素から作る。

バイオベンチャーのスパイバー（山形県鶴岡市）、シンビオーブ（京都市）との協働で開発された。半透明で軽く、張力も強い。石油由来の原料を使っていない「ゼロカーボン」の繊維で、脱炭素が求められる時代に適した新素材だ。

環境汚染を引き起こす衣料廃棄が大問題となっているファッション業界の期待



バイオ繊維を西陣織に織り込んだ中里唯馬氏の作品

は大きい。「資源を循環・再生させていく生命のシステムをお手本としたバイオ技術によるものづくりは、50年後、100年後の世界を大きく変える」と、スパイバー取締役兼代表執行役の関山和秀氏。

スパイバーはすでにバイオ繊維の一種であるタンパク質繊維「ブリュードプロテイン」を製品化している。綿やウールといった繊維に並ぶ新たな選択肢として世界で注目されており、環境問題に敏感なハイブランドとのコラボも相次ぐ。使われた製品を実際に着てみたが、軽くて繊維が密で高級感があり、肌触りはしっとりと柔らかい。

バイオ繊維の可能性

ブリュードプロテイン繊維よりも透明度の高いエアシルクは、ファッションの未来をどのように変えるだろうか？ 新素材を用いた大胆なデザインで知られるデザイナー、中里唯馬氏はこう語る。「脱炭素というと機能性をどう担保するかに開発の重点が置かれてきたが、これからは新しい美しさや情緒的価値をいかに創り出していくかが問われる」

そういう視点で見ると、まだ多くは作れないというエアシルクの欠点は「希少性」という価値になる。大量生産には向かないがデザイナーの技巧を輝かせるオートクチュールにおいては新表現のチャンスとなる。生命のシステムを手本としたテクノロジーでつくるからこそ、美しさや情緒が重んじられる人間的な世界を想像できるものを期待したい。